



宮前中だより

さいたま市立宮前中学校
学校通信 No. 2
令和3年5月6日(木)

さいたま市西区宮前町1467-1 Tel 623-7381 e-mail: miyamae-j@saitama-city.ed.jp

『白い靴』

校長 大木 克巳

新年度がスタートし、早くも1カ月が経過しました。さいたま市は「まん延防止等重点措置」が適用され、授業の内容の一部や部活動の活動時間などに制限を受けていますが、学校生活は順調に行われています。私は毎朝正門で生徒を迎えています。8時25分の始業ですが、8時20分までには、ほぼ全員の生徒が登校しています。素晴らしいことです。「急ぎなさい!」「もっと早く登校しなさい!」などと声を張り上げる場面は一度もありません。

昨年度までと変化した光景としては、様々な色の靴、白以外の靴下、スラックスやタイツを着用した女子生徒などです。校則見直しに伴って、生徒の選択の幅が広がりました。自分たちで決めた校則を守り、しっかり生活できていると思います。「ブラック校則」などと「校則」を悪者のように扱うメディアもありますが、世の中の変遷、地域の特性や学校の辿った歴史を考えず、ひとくくりに「校則」=「悪者」扱いするのはいかがなものかと思います。例えば、宮前中では昨年度まで「靴は白の運動靴」と限定していました。私自身この規定がある学校に勤務するのは2校目で、「なぜ白だけなのか?」と違和感を覚えていました。宮前中のアルバムで振り返ってみると、2010年くらいから靴が白に統一されたようです。それ以前は、色の指定は無く、スニーカーを履いている生徒の写真も見られます。

では、なぜ白の運動靴と指定されたのか?我々世代の教員ならば容易に想像ができます。1990年代にナイキのエア〇〇シリーズの販売が始まりとして、各メーカーから高価でデザイン性の高い運動靴が販売されるようになりました。若者の間で大流行しました。中には2万円を超えるものもありました。当時の中・高校では、そのような靴の盗難が続発しました。中には靴を盗み、転売する事件も発生しました。また、そのような高価な靴を規制しないから保護者の経済的な負担が増えたり、人気の靴を持ってない生徒の差別が起こったりして、保護者から登校靴を指定してほしいとの訴えが起こった学校もありました。おそらく本校でも同じような歴史があったと思われます。また、アムラー現象が起きた時期には、厚底靴、ミニスカートやルーズソックスが流行し、制服に取り入れる生徒も少数ではありませんでした。スカート丈や靴下の色や形が再度見直されたのもこの時期だったと思います。

昨年度、校則見直しをする際に本校で確認した3つの視点があります。「生徒の安全・安心」「学習に集中できること」「集団生活を大切にすること」の3つです。「安全」の面では、防寒のためにタイツや女子のスラックスを導入し、逆に暑さ対策のために、体操着の素材を変更しました。宮前中では「校則検討委員会」を中心に、生徒・保護者の要望をもとに校則の見直しを実施しました。今の校則が完璧であるとは考えていません。改善が必要な部分については、継続して見直しを行っていきます。しかし、「なぜ、今の校則があるのか」を理解して学校生活を送ってください。余談ですが、白い靴の利点は、夜間車のライトに反射することです。私は何回も白い靴のおかげで、歩行者を早く発見することができました。安全のためにはよい部分でもありました。